

ながおか・放課後子ども通信

令和6年9月2日発行(vol. 8) 長岡市教育委員会 子ども未来部 子ども・子育て課 ☎0258(39)2393

地域と学校がお互いに高め合う関係を目指して

下川西小学校 校長 羽鳥 益実

当校では昨年度、学校ボランティア『and さつき』が立ち上がりました。学校からではなく、「地域の子どもを地域で育てたい!」という、学校運営協議会のメンバーの熱い想いがそのきっかけでした。

伝統の「米づくり」や「野菜づくり」だけでなく、5年家庭科「初めての手縫い」や1年図工「初めての絵の具」等の教科の授業、読み聞かせや図書整理等、その内容は多岐にわたります。33名の登録者数ですが、7月末現在ですでに、のべ84人27回(登校時の見守りは数に含まない)もの教育活動を支援していただきました。



【1年生：初めての絵の具】

『and さつき』は、2人のコーディネーターによって支えられています。しかし、活動すればするほど、人材を調整するコーディネーターの負担が大きくなってしまいう現状があり、現在その改善に向けて知恵を出し合っているところです。

学校ボランティアの活動は、学校だけにメリットがあるわけではありません。先日「この活動のお陰で、地域の方どうしの繋がりが一層深まった」という嬉しい声をお聞きしました。地域と学校がwin-winの関係こそが、望むべき持続可能な関係だと考えます。地域の宝物である子どもたちのために、これからも地域と学校がお互いに高め合う関係を目指してまいります。

学校と「連携」し地域福祉の学びと地域住民との繋がりを模索

下川西コミュニティセンター長 兼 児童館長 渡邊 光雄

下川西地区は、保育園・小学校・コミセンが県道を挟みながら、ほぼ同一地内にあります。夕方は園児を迎えに来る親御さんの姿や子ども達の下校する姿をコミセンの窓から眺めることが出来ます。児童館は小学校内の図書室に併設されており、子ども達を見守り健全育成を図る意味でとても良い環境です。

下川西小学校では令和5年度より学校ボランティア「and さつき」を立ち上げました。私達職員も登録してボランティア活動に協力し、学校との連携を深めております。そんな中、昨年の地区福祉懇談会のグループ討議で「子ども達に福祉活動の現場を見学してもらい、地域福祉の醸成を図れたら良いのでは」という意見が出ました。学校と相談したところ6年生の総合学習に取り入れてもらい、配食サービスの弁当作りの現場や配食されるボランティアさんの活躍を見学していただきました。福祉担当主事が下川西地区の福祉活動について説明し、多くの質問を受けました。後に感想文をいただきました。また、コミセンの生涯楽(学)習と小学校のクラブをコラボレーションさせ、子ども達と地域住民とで「ボッチャ」をしました。どこの地域でもそこで生まれ育っていく中で人と人は繋がっていきます。子ども達の健全な育成を図りながら、福祉サービスを受ける人、それを支える人達(福祉ボランティア)を肌で感じてもらい、関わる人達がいるから地区の福祉活動が成り立っていることを学んでほしいと思っています。今後も「地域の子どもは地域で育てる」を合言葉に学校との連携を深めコミュニティ活動を進めていきたいと思ひます。

児童館・児童クラブでの取組より ～癩癩(かんしゃく)を起こす子への対応～

「突然大暴れする子がいる。前触れも理由もなく唐突に極端な行動（暴れる・叫ぶなど）を起こすので困っている。」と、こんな声が寄せられることがあります。いわゆる癩癩を起こすという相談です。きっかけは全く見当もつかなかったり、ほんの些細なことであつたりと様々ですが、共通しているのは「通常ならこんな極端な反応にはならないはずだ」と厚生員が当惑するような状況だということです。こうした場合、発達障害ゆえと想定した対応をお勧めしています。その行動の改善は、環境の調整に依っていきま

<癩癩の場での厚生員の対応>

多くの場合、癩癩の最中に何か話しかけても火に油を注ぐようなものです。癩癩が起きたら、まずは「クールダウンだけ」を心掛けてもらっています。危険なものがない場所へ移動して、ひたすら落ち着くのを待ちます。状況が許せば、クールダウン用のスペースを事前に用意している館もあります。

待っている最中、子どもがまだ興奮している間はなだめるための声かけも我慢するよう伝えます。癩癩という行動を強化してしまう可能性を避けるためです。やがて落ち着きを取り戻したと思ったら、時間の許す限り受容的に子どもの言い分を聞いてもらっています。「落ち着く➡優しくしてもらえる」によって、子どもの中で落ち着くという行動が強化されます。落ち着いた後には子どもの気持ちの言語化を行い、感情を受け止めたうえで必要な指導を短い言葉で伝えるとうまくいくことが多いようです。



<厚生員間で共有していくこと>

癩癩のきっかけは、「不注意による失敗」や「ゼロ/100 思考」など、発達障害の特性と言われるものに所以することが少なくありません。こうした要因を先回りした配慮によって取り除くことをチームとしての厚生員全員で共有し、なおかつ意識的に該当児を褒める機会を増やして自己肯定感を支えていくことで、ゆっくりとですが着実に改善へと向かうことが期待されます。

ある館では、粗暴な言動が目立っていた子に対して、事前の約束を踏まえた褒め言葉を意図的に増やしたところ、穏やかな過ごし方が増えたそうです。これを後日紹介された他の職員からも「気にかけて声を掛けてみたら笑顔が増えた」との声が上がっていました。

癩癩に出会った際には、焦らず淡々と安全管理し、落ち着いてから言い分を聞く。そして調子のよいときに意図的に褒める回数を増やすことで、結果的に子どもの不具合を未然防止していきます。

児童クラブ厚生員研修会・放課後子ども教室実務者情報交換会

6月28日(金)に児童クラブ厚生員研修会(写真左)、7月12日(金)に放課後子ども教室実務者情報交換会(写真右)を行いました。厚生員研修会では「支援の必要な子どもたちへの対応術」の講義を聞きました。実務者情報交換会では各教室での成果と課題を出し合い、自教室の運営改善の手がかりを得る会としました。放課後の子どもたちに安全・安心で健やかな居場所づくりを推進するため、学び続けています。



親も育つ子育てセミナー

7月27日（土）に新潟県警察本部 長岡少年サポートセンターから講師をお招きし、「あなたのお子さんが被害者や加害者にならないために知っておいてほしいこと」をテーマに、親のための SNS 講演会を開催しました。映像での事例紹介も交えながら説明いただき、子どもを取り巻く SNS 社会の状況と子どもへの声掛けの方法について学ぶ機会となりました。参加した保護者からは「トラブルになるまでの流れがよく分かった」「相談しやすい親子関係を築きたい」などの感想をいただき、学びの多い有意義な講演会でした。



放課後子ども教室 ～夏休み中の活動より～

○絵本であそぼう

（日越放課後子ども教室）7月29日（月）

『はらぺこあおむし』の大型絵本とCDを使っての読み聞かせと折り紙を組み合わせたあおむし作りをしました。

参加した子どもたちは「最初の絵本の歌がおもしろかった。」「折るのが、めっちゃ楽しかった。」「簡単だった。」「家でもつくってみようかな。」「自分で作れて、すごいと思った。」と話してくれました。

学習アドバイザーからは「読み聞かせは、他の放課後子ども教室での経験がありましたが、工作ははじめての試みでした。どうなるかと思いましたが、子どもたちが結構楽しんでくれたのでよかったです。組み立ては、大人が3人いた上に子ども同士が教え合っていたので、うまくいきました。」との感想をいただきました。



○絵てがみ教室

（山通放課後子ども教室）8月6日（火）

1～4年の児童10名が参加しました。学習アドバイザーは、地域で絵手紙を指導されている方です。過去にも紙コップやうちわに絵を描いたことがありました。2年生以上の子どもの中には過去にも参加したことがある子もいました。今回は削って描くタイプのものを使用しました。削り方を工夫して見え方を楽しむ活動です。

「あつ、見えてきた。こんな色か。」「ほら、できた。こんな感じでいいかな。」作業が進むにつれて、こんな声が聞こえてきました。また、根を詰めて疲れると、少し休憩。時々夏休みの話をはさみながら和やかな雰囲気の中で作品作りをしていました。「疲れたけど、またやってみたい。」と言って会場を後にする子もいました。



いろいろな人と共に楽しく食べられる時間と場所を「来迎寺みんな食堂」

来迎寺みんな食堂 代表 岩崎淳鋭

コミュニケーションの場、大きな喜びとなるのが「共に食べる」という時間です。

地域住民の憩いの時間は当然の事、一人で食事してる高齢者、ひとり親家庭の子ども等の地区住民に、手づくりの美味しい食事をいろいろな人と共に楽しく食べられる時間と場所を提供したい。そう願う地域の人達が賛同し「来迎寺みんな食堂」を立ち上げました。

「“おなじ釜の飯を食う”事で、心をほぐし本音で語り合える関係を築くきっかけにしたい」「共に食事をする時間を通して地域の居場所を作ろう」という大きな目標を掲げ、越路の中心部にある越路総合福祉センターを会場に、令和4年3月より毎月1回、近隣450世帯を対象に開催しています。



毎回味を変えながらスパイスから作る本格カレー弁当をボランティア16人で調理し、住民の皆様から感謝されています。開始当時は会食形式で運営しましたが、対象地域は世帯平均



4.5人と2世代同居が主であり家族集まって食事をする文化が根付いていましたので、会食は困難と判断し、現在は配食形式で運営しています。

毎月多くの利用者からいただく「月1回でも仕事で疲れて帰宅しても料理をしなくて良い日が有り助かる」等の感謝のメールや手紙に、来月も趣向を凝らそうと心に誓っています。

開催日：第3金曜日 17:00～

場所：越路総合福祉センター

料金：子ども150円 大人250円

主任児童委員の活動について

長岡市主任児童委員会 委員長（大島地区主任児童委員） 柳澤 由紀子

主任児童委員は、厚生労働大臣の委嘱を受けて、民生委員・児童委員と連携しながら、妊婦や乳幼児・児童など子育て家庭に関することを専門的に担当しています。任期は3年、長岡市では34地区61名の主任児童委員が活動しています。

主任児童委員の役割は児童福祉法により、区域を担当する民生委員・児童委員と児童福祉に関する機関との連絡調整を行うとともに、区域を担当する児童委員の活動に対する援助・協力を行うことと定められています。

また、保育園や学校との連携、民生委員・児童委員の他に地区で活動している市民や地域組織・団体と協力・連携しながら、児童健全育成に関する啓発活動や児童虐待防止活動などに取り組んでいます。

長岡市主任児童委員会では、委員会を年3回開催し、研修や主任児童委員同士の情報交換を行っています。また、外部研修への参加をとおして、今の子ども・青少年を取り巻くさまざまな問題や子育ての現状を理解し対応できるよう、資質向上に努めています。主任児童委員は、行政をはじめ学校、地域、家庭の「橋渡し役」だと考えております。皆様と密に連携を取りながら、長岡の子どもたちが「心豊かに」かつ「健やかに」成長できる環境づくりを推進していきたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。